

特集:コレクション紹介  
 19世紀イギリスの  
 挿絵付き雑誌



- (上) George Cruikshankによる挿絵  
 〈掲載誌: *The British stage, and Literary Cabinet* Vol. I (1817)〉
- (左) Thomas Rowlandsonによる挿絵  
 〈掲載誌: *The Humourist* (1831)〉

CONTENTS

- 特 集 19世紀イギリスの挿絵付き雑誌
- 図書館さんぽ 第8回「国文学研究資料館」
- VOICE 図書館の「色」
- 新収資料紹介 中央大学教職員著作目録・資料目録  
 (2008.2~2008.9収集分)

18～19世紀のイギリスの歴史や文学、思想史を研究する者にとって最大の難関となるのは、それ以前の時代には殆ど存在しなかった所謂定期刊行物である。つまり、新聞と雑誌である。それがあまりにも量が多く、内容がバラエティに富みすぎているのだ。政治・経済の話から始まって宗教、思想、科学の話があり、そこに旅行の話や家事のことがつけ加わる。詩があり、小説があり、劇評があり、そして何よりも大量の書評がある。とりわけ19世紀の書評雑誌になると、一度に5～6冊の本を取り上げたりするのは当たり前のことだし、しかもその対象となる本はイギリスで刊行されたものには限られない。論より証拠、*The Edinburgh Review* (1802-1929)を開いてみるといい。ほぼ同じ時期に刊行され始めた*The Quarterly Review*もそのそばに置いてみるといい。

問題は、われわれ研究者が例えばこの二つの雑誌をどのように利用するのかということだろう。殆どの場合、特定のテーマを研究しているときに、研究書が何かで、某雑誌の何年何月号の何頁から何頁に関連の記事があることを知って、それを読むということになるはずである。200年も300年も前の外国の雑誌を読むということ自体が、少し前までは、留学でもしなければ不可能なことであつたし、研究する側の外国語力の乏しさも切実な問題としてあつたので、それでやむなしということであつたのかも知れない。

しかし、最近では事情が少し違ってきている。まず第一に、外国の資料であっても、マイクロフィルムやネットを利用すれば国内で読めるようになっていし、それ以上に、日本各地の図書館が購入した現物を読むことができるのだ。先程挙げた二つの書評雑誌を全頁めくることができるのだ——例えば中央大学の中央図書館で。地下2階の書庫で初めてその前に立ったときの強烈な驚きのことを、今でも私は鮮明に記憶している。私はそれを読もうと思った。全部読んでやろうと思った。

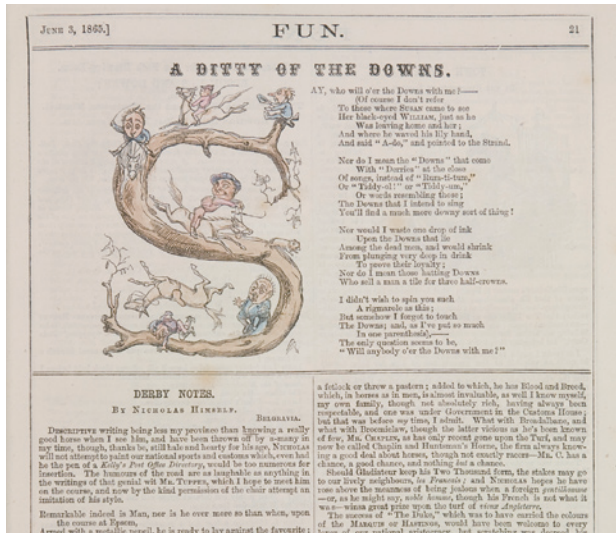
法学部の英語の非常勤として働き始めてからおよそ30年、私はその中央図書館に通い続けている。



30代の頃は、夏休みになると、朝10時過ぎには中に入って閉館の時刻まで、昼食のときを除いて、ずっと中にいて、雑誌をめくり続けていた。19世紀の各種の雑誌や議会の議事録、裁判所の記録などを。

勿論これだけ長期にわたって利用していると、逆についてウツカリとミスをしてしまうことがある。各雑誌の位置がおおよそ頭に入ってしまったために、新規参入の小さな雑誌を見落としてしまうことがあるということだ。最近では*Fun*(写真上)という雑誌がその例で、これは地下2階の書庫の某列の一番奥の壁際の一番下の段にある。この雑誌の現物があるのは、わが国では中央大学の中央図書館のみである。1865年から30年ほど刊行され続けたこの雑誌は、ユーモアと風刺にあふれる詩、戯曲、散文と多数の挿絵を組み合わせたもの。こう説明すると、それじゃ、*Punch*とよく似ているじゃないかと言われるかもしれないが、実はその通りなのである——正確に言うと、文章と挿絵の双方がそのパロディになっているのだ。『パンチ』の場合、その表紙を飾るのはナスビそっくりの体型のパンチ氏と愛犬トウビーであったが、『ファン』の場合は細身の長身





ファン氏と愛犬のブルドッグのジョン。発刊の辞には、「我々の第一の目的は〈最大多数の最大笑い〉を確保することである」と謳ってある。

めくり出して、仰天。この挿絵、その構図といい雰囲気といい、どこかで見たことがあるなと思ったら、それもそのはずで『パンチ』のパクリなのだ(写真上)。リチャード・ドイルの挿絵を堂々と拝借したものだ(因みに、彼は小説家コナン・ドイルの伯父にあたる人物で、シャーロック・ホームズ物が連載された雑誌*The Strand Magazine*も地下2階にある。)もうひとつ驚いていいことがあって、その挿絵の多くに水彩で着色されているのだ。今風の言い方をすれば、素人のヘタウマの着色である——と言うことは、このセットは世界に唯一無二のものだということである。貴重書庫には*The Illustrated London News*が全巻揃っているし、*Punch*は勿論1841年から150年分揃っているのだから、あとは*The Graphic*だ。これが入れば、ヴィクトリア時代のイギリスの挿絵入り雑誌の核が揃うことになり、デイヴィッド・ヒュームやトマス・ハーディのコレクション



ンと並ぶ、中央大学の一大財産となるはずである。既に一部は所蔵されてはいるけれども、全巻欲しい。是非とも購入して戴きたい。

そんなことを考えながら、貴重書庫にもぐる。そこにある*British Minor Periodicals of the Nineteenth Century* という名のコレクションを確認するのが目的であるが、そこに集められているのは156点の極めてマイナーな雑誌である。あまりにもマイナーすぎて、購入された時点では、そのうちの44種類の雑誌について、大英図書館にも所蔵されていないことが確認されている。なぜこのような信じがたいコレクションが出来上がったのだろうか。少なくともその理由のひとつは、首都ロンドンではなくて、アバディーン、グラスゴウ、ヨーク、マンチェスター等の地方都市で発行された短命の、ときには一年と続かなかったと思われる雑誌が幾つも含まれているからだ。

それらを見てゆくと、扱われている対象は当然のことながら実に多岐にわたっている。文学、政治、宗教、音楽、科学などの話題のそばに、どこかしら道徳教本めいた雰囲気や漂わせているものもある。このコレクションをめくりながら考えてしまうことのひとつは、ここからどんな研究への途が開けてくるのかということである。あまりにもバラバラで活用のしようがないと嘆く研究者が出てきそうな気がしないでもない。

しかし、中央図書館にある他の雑誌、とりわけ全国的な雑誌と連動させることを考えれば、ロンドンと地方都市の読者の趣味関心の比較という新しい研究テーマを設定することもできるはずだ。全国誌の代表*The Gentleman's Magazine* (1731-1914)は全巻貴重書庫にあるし、地下2階には*The Cornhill Magazine*、*The Contemporary Review*、*The Fortnightly Review*、*The Nineteenth Century* 等がずらりと並んでいて、その比較を待っている。つまり、このコレクションを生かすためのコンテキストがそこに用意されているのである。

同じく地下2階にはディケンズの編集した雑誌*Household Words*と*All the Year Round*が揃っているのに対して、ほぼ同時代の二人の大衆作家ジョージ・W. M. レイノルズとダグラス・ジェロルドの編集した*Reynold's Miscellany* (1846-55) (写真左段下)と*Douglas Jerrold's Shilling Magazine*



(1845-47)がこのコレクションに含まれている。ディケンズの小説の挿絵画家としても知られるジョージ・クルックシャンクの挿絵付きのThomas Kenrick, *The British Stage and Literary Cabinet* (1817) (写真:表紙)も並んでいる。そうした雑誌の内容の比較検討によって、大学院生でも新しい独創的な論文が書けるはずなのだ。

本当は一冊づつすべて紹介したいところなのだが、そんな余裕はないので、もう一度挿絵付きの雑誌に話を戻すことにする。このコレクションにも幾つか含まれているのだ。それは挿絵革命が決して *Punch* 等の首都の雑誌に限られるものではなく、地方都市にも及んでいたことをまざまざと見せつけてくれる。*Glasgow Looking Glass* (1825-26) もひとつの例で、そこに含まれている「グラスゴウのフェア」という題の挿絵(写真上)は、当時としては珍しい俯瞰のパースペクティブを用いたもの。見事である。

Albert Smith and Angus B.Reach ed, *Man in the Moon* (1847-49) (写真右)は縦横約14センチの小冊子形式で、その原形のまま箱入りの形になっている。その挿絵を担当し

ている人物のひとりフィズは、ディケンズの小説の挿絵画家でもあった。収録されているエッセイや短文は間違いなく *Punch* を模倣したものである。各冊子の最後には、今と言う宣伝広告のページに似たものもあって、そこで宣伝されているのがなんと *The Illustrated London News* なのである。他にも、当時有名だったオペラ歌手ジェニー・リンドの出演予定が載せられている。同じ時期の *Punch* をめくってみるといい。挿絵付きの彼女の記事が幾つか見つかるはずである。



(編集部注)

文中の斜体で表示したタイトルはすべて図書館で所蔵しております。ただし、British Minor Periodicals of the Nineteenth Centuryは156タイトルの雑誌コレクションの総称であり、また *The Graphic* はリプリント版(一部原本)での所蔵となります。

また、この特集と連動して、第11回中央図書館企画展示『19世紀イギリスの挿絵付き雑誌』を下記要領にて開催いたしますので是非ご覧下さい。

**期間** 2008年11月17日(月)～12月13日(土)

**場所** 中央図書館 2F 展示コーナー



### 富山太佳夫(とみやま・たかお)

1947年鳥取県に生まれる。1973年東京大学大学院修士課程修了(英文学)。専門は19世紀イギリス小説。

1993年『シャーロック・ホームズの世紀末』(青土社)で第44回芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。最近の執筆『図書』11月号(岩波書店)の巻頭「読む人・書く人・つくる人」で、中央大学図書館について触れている。最新の著書に『英文学への挑戦』(岩波書店,2008)。ほかにも、著書多数。



**利用資格**：同館の資料を必要とする人（利用者登録手続きが必要）

**開館時間**：9:00～18:00（土曜 9:30～17:00）

**休館日**：日曜日、国民の祝日、振替休日、第2第4水曜日、毎月末日、年末年始  
※詳細は、ホームページのカレンダーをご覧ください。

**サービス**：閲覧・複写・撮影・レファレンスサービス・貸出（紙焼写真本の一部のみ）

**蔵書数**：図書：187,000冊 雑誌：5,500タイトル

**住所**：〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

**TEL/FAX**：050-5533-2926/042-526-8607

**URL**：http://www.nijl.ac.jp/

**交通アクセス**：多摩都市モノレール「高松駅」から徒歩7分  
JR「立川駅」から徒歩25分



### 新しくなった国文学研究資料館

国文学研究資料館は、研究・事業の一環として、国内外における国文学・歴史資料の調査、マイクロフィルム等による収集、資料保存活動を行っています。2008年3月には品川区より立川市へ移転し、本学多摩キャンパスからは身近な存在となりました。今回は、新しい図書館を中心にご紹介します。

### 設備の充実した閲覧室に

新図書館の入口は総合研究棟1階にあります。移転前と比較すると閲覧室は約3倍の広さになり、ゆったりとした環境で資料を閲覧できます。開架図書も増え、国文学の雑誌・紀要類の大部分は直接手に取ってみることができるようになりました。カウンター付近には貴重書を閲覧するための大きな机や、古文書などを撮影するためのコーナーがあり、設備が充実しています。



▲貴重書閲覧コーナー（手前）・紙焼写真書架（右奥）

### 全国に散々している国文学関係資料を マイクロフィルム化し収集、公開

特筆すべき収集資料に、マイクロ資料があります。全国各地の図書館・文庫・寺社等が所有している江戸時代以前の国文学関係の写本・版本等をマイクロフィルム化し、公開しています。これは、わが国の文化遺産ともいえるべき貴重な資料が災

害その他の諸事情で失われてゆくのを防ぎ、保存したものを次の世代へ伝える役割を果たしています。また、研究者にとっては、資料閲覧のために全国各地を訪問しなくても、同館でマイクロフィルムの形で利用することができるという利点があります。

マイクロフィルムの閲覧は専用の機械を利用するため、多少手間がかかりますが、こちらでは一部の資料についてはマイクロから紙焼写真本を作成し、閲覧室で手に取って確認することができます。

また、多くの貴重な古典籍（源氏物語、徒然草、好色一代男等）や特別コレクションも所蔵しています。



▲紙焼写真本

### ホームページから利用できる 便利なデータベース

同館では日本文学に関する各種情報・資料をさまざまなデータベースで提供しています。その中でも「国文学論文目録データベース」は、大正元年以降の国文学関係の論文がどの雑誌に掲載されているか調べることができます。CiNii等の雑誌記事索引には収録されていない同人誌など、マイナーな雑誌も収録しているので、国文学関係の論文を探す際には便利です。（次ページへ続く）

我々の学びの拠点である多摩キャンパスからは30分以内の場所に位置する国文学研究資料館。季節ごとに展示や講演会が開催されているので、ホームページで確認し訪ねてみてはいかがでしょうか。同館の所蔵資料を調べるには、「図書・雑誌

所蔵目録(OPAC)」と「マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録」が同館ホームページに公開されています。なお、午後は利用が混み合うため、訪問するなら午前中がお勧めとのことです。

## ～ のぞいてみよう！貴重な資料をホームページで公開～

「今月の一冊」2008年5月『白描淡彩源氏物語絵』(同館ホームページより)



▲「空蟬(うつせみ)」巻の一場面  
暑い夜、暮を打っている空蟬と軒端の萩(のきばのおぎ)を、光源氏がのぞき見しているくだり。



▲「夕顔(ゆうがお)」巻の一場面  
夕顔の花咲く屋敷の女主人から、光源氏のもとへ、扇に載せた花と手紙が届けられるくだり。扇を受け取っているのは、光源氏の腹心惟光(これみつ)。

## Voice

### 図書館の「色」

図書館情報資料課 植苗 翔

図書館にも色がある、と言ったら皆さんはどう思われるでしょうか。訝しむ方もいるかもしれませんが。政治・思想的なある種の傾向を持った蔵書の構成を思い浮かべる方もいるかもしれません。貴重書や特色のあるコレクションを想像される方もいるでしょう。しかしここでお話しするのは、建物、つまりハコとしての図書館にある「色」です。

最近作られた地域の公共図書館も大学図書館も、デザインに凝ったものが多いですね。独立して建っているものはガラスの大きな窓やアルミ張りの洗練された外装になっていますし、市民センターなどに間借りしているものでも、落ち着いた色調の内装やよく計算された配置の閲覧席が私たちをリラックスさせてくれます。

しかし、そのような現代的な図書館にすら、どうかするとその地域や大学の「色」、つまり歴史や文化や校風を感じないことがあります。ましてや高度成長期に建てられた図書館の多くは、たとえばA市とB市の図書館をこっそり建物ごと入れ替えてみてもばれないのではないかと思うほど「無色」で、使っていてもどこことなく寒々しい気持ちがします。

一方で、「色」を意識してデザインされた図書館を見た

り使ったりするのは楽しいものです。以前訪れた沖縄県石垣島の図書館は、沖縄の伝統建築をアレンジしたデザインで作られていました。瓦の大屋根のオレンジ色が抜けるような青空に映え、それはそれは美しいものでした。もちろん大屋根の真ん中にはシーサーがちょこんと座っています。大学図書館でも、内装がスクールカラーを基調としたものであったり、大学の頭文字を意匠に取り込んでいたり、工夫しているところがいくつかあります。

そのような「色」が図書館に必要なものかどうかという議論はあるかもしれませんが。そちらを大事にするあまりに使い勝手の悪い図書館ができてしまっただけの本末転倒です。しかし、図書館にはその地域や大学が歴史、伝統、民俗、文化、校風を背景として紡ぎだしてきた知識を守り、次の世代に受け継いでいくという役割があります。「ただのハコ」と割り切ってしまうのではなく、「色」を取り入れていくことが、その地域や大学、またそこに住み、学ぶ人々を豊かにしてくれるかもしれません。

私たちが働き、そして皆さんが利用されている中央大学図書館にも「色」はあるでしょうか。私はいくつか見つけたのですが、内緒にしておきます。そういうものを探すのも、楽しみですもんね。

# 新収資料紹介

## ①教職員著作目録 2008.2 - 2008.8 配架図書一覧 ( )は所属学部等

著者名	書名	出版社	配置場所	請求記号
青野 壽彦 (経済学部) ほか 著	地域産業構造の転換と地域経済 首都周辺山梨県都内地域の織物業・機械工業	古今書院	中央	586.721/A55
飯田 朝子 (商学部) 著	アイドルのウエストはなぜ58センチなのか 数のサブリミナル効果	小学館	開架・中央	815.2/I26
蘇 董 著 飯塚 容 (文学部) 著訳	碧奴 涙の女 (新・世界の神話)	角川書店	開架	923/So11
池田 和臣 (文学部) 著	逢瀬で読心源氏物語 (アスキー新書 063)	アスキー・メディアワークス	開架	913.36/I32
池田 雄一 (名誉教授) 著	中国古代の律令と社会 (汲古叢書 78)	汲古書院	開架	222.03/I32
植野 妙実子(理工学部) ほか 編著	ジェンダーの地平	中央大学出版部	開架・中央	367.235/U45
上野 清貴 (商学部) 著	財務会計の基礎	中央経済社	開架	336.9/U45
岩間 徹、柳 憲一郎 編集 牛嶋 仁 (法学部) ほか 執筆	環境リスク管理と法 浅野直人教授還暦記念論文集	慈学社出版	中央・市ヶ谷	519.5/I94
伊原 弘 著 梅村 坦 (総合政策学部)	宋と中央ユーラシア (中公文庫 世界の歴史 7)	中央公論新社	開架	中公文庫 /S-22-7
中央大学スタイロン研究会 編集 大浦 暁生 (名誉教授) 監修	ウィリアム・スタイロンの世界	中央大学出版部	開架・中央	930.29/St9/C66
新堂 幸司、山下 友信 編 大杉 謙一 (法科大学院) 執筆 落合 誠一 (法科大学院)	会社法と商事法務	商事法務	中央・市ヶ谷	325.2/Sh62
大田 美和 (文学部) 著	アン・フロンテ 二十一世紀の再評価 (中央大学学術図書 68)	中央大学出版部	中央	930.2/B75/O81
ジョルジュ・サンド著 持田 明子 著 大野 一 監訳 (経済学部)	歌姫コンシュエロ 上・下 愛と冒険の旅 (ジョルジュ・サンドセレクション 3-4)	藤原書店	中央	958/Sa62
奥田 安弘 (法科大学院) 著	外国人の法律相談チェックマニュアル 第3版	明石書店	開架・市ヶ谷	329.9/O54
小塩 節 (名誉教授) 著	銀文字聖書の謎 (新潮選書)	新潮社	開架	193.09/O77
ツヴェタン・トドロフ 著 小野 潮 (文学部) 著訳	異郷に生きる者 (叢書・ウニベルシタス 880)	法政大学出版局	中央	950.2/To18
金井 貴嗣 (法学部) ほか 編	独占禁止法 第2版補正版	弘文堂	開架・中央	335.57/Ka44
金子 貞吉 (名誉教授) 著 武田 勝 (経済学部)	導入日本経済	学文社	開架	332.106/Ka53
金光 仁三郎(経済学部) 監修	知っておきたい世界の女神・天女・鬼女	西東社	開架	162/Ka53
木田 元 (名誉教授) 著	反哲学入門	新潮社	開架	130/Ki12
シュテファン・ピーンドル、 トーマス・オットー 編 喜多尾 道冬(名誉教授) 訳	私が独裁者？モーツァルトこそ！ チェリビダック音楽語録	音楽之友社	開架	762.395/C29/P61
喜多尾 道冬(名誉教授) 著	聖女・悪女伝説 神話/聖書編 (ムーサの贈り物 絵画・詩・音楽の出会いとところ 3)	音楽之友社	開架	723/Ki71
ロバート・クーパー 著 北沢 格 (経済学部) 著訳	国家の崩壊 新リベラル帝国主義と世界秩序	日本経済新聞出版社	開架	319/C87
国本 伊代 (商学部) 著	メキシコ革命 (世界史リブレット 122)	山川出版社	開架	256/Ku45
北澤 毅 編 古賀 正義 (文学部)	質的調査法を学ぶ人のために	世界思想社	開架・中央	361.9/Ki75
デニス・シュマント=ベッセラ 著 小口 好昭 (経済学部) 訳 中田 一郎 (名誉教授)	文字はこうして生まれた	岩波書店	開架・中央	801.1/Sc5
飯島 澄雄 ほか 著 小島 武司 (名誉教授) 監修	実践民事弁護の基礎 訴え提起までにすべきこと	雄松堂出版	開架・市ヶ谷	327.2/I27
児嶋 隆 (商学部) ほか 著	監査論の要点整理 公認会計士試験科目別短答式対策 第3版	中央経済社	開架	336.97/Ko39
今 まど子 (名誉教授) 編著	図書館学基礎資料 第7版	樹村房	開架	M010.1/Ko71
斎藤 信治 (法科大学院) 著	刑法総論 第6版	有斐閣	開架・中央	326.1/Sa25
日本都市センター 企画 編集講演	人口減少時代における都市経営 (日本都市センターブックレット No.16)	日本都市センター	開架	318.7/N77
佐々木 信夫(経済学部) ほか 著	自治体政策 (国際公共政策叢書 16)	日本経済評論社	開架・中央	318/Sa75
椎橋 隆幸 (法学部) 編 柳川 重規 (法学部) 編 中野目 善則 (法科大学院) 執筆 小木曾 綾 (法科大学院)	プライマリー刑事訴訟法 第2版	不磨書房	開架・中央	327.6/Sh32
菅原 彬州 (法学部) 編	連続と非連続の日本政治 (研究叢書 19)	中央大学出版部	開架・中央	312.1/Su28
関野 満夫 (経済学部) 著	日本農村の財政学	高倉出版	開架・中央	611.021/Se37
高橋 薫 (法学部) 著	言葉の現場へ フランス 16世紀における知の中層 (中央大学学術図書 69)	中央大学出版部	中央	235.05/Ta33
滝田 賢治 (法学部) 編	国際政治経済 「グローバル・イシュー」の解説と資料	有信堂高文社	開架・中央	319/Ta73
伊東 研祐 著 只木 誠 (法学部) ほか	刑法各論 法科大学院テキスト	日本評論社	開架・中央	326.2/I89
島 伸一 編著 只木 誠 (法学部) ほか	たのしい刑法 第2版	弘文堂	開架	326/Sh35
立石 二六 (法学部) 著	刑法総論 第3版	成文堂	開架・中央	326.1/Ta94
田中 素香 (経済学部) ほか 編	現代国際金融 (新・国際金融テキスト 3)	有斐閣	開架・中央	338.9/Ta84
田辺 勝美 (総合政策学部) 編	ガンダーラ佛教美術 (平山コレクション)	講談社	中央	702.098/Ta83
三好 博昭 編著 谷下 雅義 (理工学部)	自動車の技術革新と経済厚生 企業戦略と公共政策の効果分析	白桃書房	開架	537.09/Mi91
都筑 学 (文学部) 編	やさしい発達心理学 乳児から青年までの発達プロセス	ナカニシヤ出版	開架・中央	143/Ts99
久保 亨 著 土田 哲夫 (経済学部)	現代中国の歴史 兩岸三地 100年のあゆみ	東京大学出版会	開架	222.07/Ku11
島田 達巳、遠山 暁 (商学部) 編	情報技術と企業経営 第2版 (21世紀経営学シリーズ 5)	学文社	開架・市ヶ谷	335.1/N73
遠山 暁 (商学部) ほか 著	経営情報論 新版 (有斐閣アルマ Specialized)	有斐閣	開架・中央	336/To79
所 雄章 (名誉教授) 著	知られざるデカルト デカルト研究拾遺	知泉書館	中央	135.1/To34
富岡 幸雄 (名誉教授) 著	税務会計学講義 新版	中央経済社	開架	336.98/To56
富田 俊基 (法学部) 著	財投改革の虚と実	東洋経済新報社	開架・中央	343/To58
鳥居 伸好 (経済学部) 編 鷲谷 徹 (経済学部) 編 伊藤 洋司 (経済学部) 編 森岡 実穂 (経済学部) 編 藪田 雅弘 (経済学部)	21世紀の人間と経済 中央大学経済学部創立100周年記念 (セブン&アイ・ホールディングス鈴木敏文代表寄付講座シリーズ 3)	中央大学出版部	開架・中央	330.4/To67
酒巻 俊雄、龍田 節 編 永井 和之 (法学部) ほか	総則・設立 会社法の沿革・会社法の性格・第1条～第103条 (逐条解説会社法 第1巻)	中央経済社	市ヶ谷	325.2/C44



著者名	書名	出版社	配置場所	請求記号
アルベルト・メルツ 新原 道信 (文学部) ほか 著訳	ブレイン・セルフ 惑星社会における人間と意味	ハーベスト社	開架	361.1/Me36
服部 龍二 (総合政策学部) 著	広田弘毅「悲劇の宰相」の実像 (中公新書 1951)	中央公論新社	開架	中公新書 / 1951
兵藤 宗吉 (文学部) ほか 編著	認知心理学基礎実験入門	八千代出版	開架・中央	141.5/H99
広岡 守穂 (法学部) 編著	ちょっといい話で学ぶ男女共同参画 (アバンセ・ブックレット)	佐賀県女性と生涯学習財団	開架	367.21/H71
ロバート・L・ゲイル 福士 久夫 (経済学部) 著訳	ハーマン・メルヴィル事典 (アメリカ文学ライブラリー 3)	雄松堂出版	中央	D930.29/ Me37/G17
藤本 哲也 (法学部) 著	刑事政策概論 全訂第6版	青林書院	開架・中央	326.3/F62
日本公共政策学会、 中央大学 21世紀COEプログラム 細野 助博 (総合政策学部) 編 監修	科学技術の公共政策	中央大学出版部	開架・中央	509.1/N77
安田 武彦、高橋 徳行 本庄 裕司 (商学部) ほか 著	テキストライフサイクルから見た中小企業論	同友館	開架	335.35/Y62
丸山 英氣 (法科大学院) ほか 著	民法概説 第5版	成文堂	開架・中央	324/Ma59
丸山 秀平 (法学部) 野村 修也 (法科大学院) 大杉 謙一 (法科大学院) ほか 著	ケースブック会社法 (弘文堂ケースブックシリーズ)	弘文堂	開架・中央	325.2/Ma59
根田 正樹 丸山 秀平 (法学部) 編著	一般社団法人・財団法人の法務と税務	経経詳報社	開架・中央	324.12/Ko72
戦略研究学会 原田 保 三浦 俊彦 (商学部) 編 編著	マーケティング戦略論 レビュー・体系・ケース (叢書アカデミア 1)	芙蓉書房出版	開架	675.2/H32
三浦 信孝 (文学部) 松本 悠子 (文学部) 編	グローバル化と文化の横断 (中央大学学術シンポジウム研究叢書 6)	中央大学出版部	開架・中央	361.6/Mi67
森茂 岳雄 (文学部) ほか 編著	日系移民学習の理論と実践 グローバル教育と多文化教育をつなぐ	明石書店	開架・中央	375/Mo55
小菅 成一 矢内 一好 (商学部) ほか 著	設立から再生、破産までの会社関係手続実務ハンドブック	経経詳報社	中央	325.2/Ko89
矢内 一好 (商学部) ほか 著	外国税額控除の理論と実際	同文館出版	開架・中央	345.3/Y54
矢内 一好 (商学部) 著	Q&A 国際税務の基本問題 最新トピックスの検討	経経詳報社	開架・市ヶ谷	336.98/Y54
山内 惟介 (法学部) ほか 編著	国際金融証券市場と法 中央大学法学部インターナショナルシップ講義・大和総研協力講座	中央大学出版部	開架・中央	338.9/Y46
ディルク・エーラーズ 山内 惟介 (法学部) 石川 敏行 (法科大学院) 工藤 達朗 (法科大学院) 編訳	ヨーロッパ・ドイツ行政法の諸問題 エーラーズ教授講演集 (日本比較法研究所訳訳叢書 55)	中央大学出版部	開架・中央	323.9934/E35
山口 真美 (文学部) ほか 編	知覚・認知の発達心理学入門 実験で探る乳児の認識世界	北大路書房	開架・中央	376.11/Y24
山田 八千子 (法科大学院) 著	自由の契約法理論 (法哲学叢書 9)	弘文堂	開架・中央	321.1/Y19
横田 洋三 (法科大学院) 訳編	国際社会における法の支配と市民生活 ヒギンズ国際司法裁判所所長の講演とパネルディスカッション (JUNU レクチャー・シリーズ 1)	国際書院	開架・市ヶ谷	329/Y78
横田 洋三 (法科大学院) 編	国際人権入門	法律文化社	開架・中央	316.1/Y78
ミシェリン・R. イシエイ 横田 洋三 (法科大学院) 著 監訳	人権の歴史 古代からグローバリゼーションの時代まで	明石書店	開架・市ヶ谷	316.1/I69
横山 彰 (総合政策学部) ほか 編	温暖化対策と経済成長の制度設計	勁草書房	開架・中央	519.5/Y79
太田 政男 横湯 園子 (文学部) 編著	思春期・青年期サポートガイド 困った! に応え、自立を励ます	新科学出版社	中央	371.4/O81
日本の戦争責任資料センター、 アクティブ・ミュージアム 「女たちの戦争と平和資料館」 吉見 義明 (商学部) ほか 編 執筆	ここまでわかった! 日本軍「慰安婦」制度	かもがわ出版	開架	210.7/N77
吉村 豊 (理工学部) ほか 著	泳ぐことの科学 (NHK ブックス 1103)	日本放送出版協会	開架・理工	785.2/Y91
若松 隆 (法学部) ほか 編	ヨーロッパ分権改革の新潮流 地域主義と補完性原理	中央大学出版部	開架	318.93/W21
渡部 裕巨 (名誉教授) 編著	ファーストステップ簿記を学ぶ 第2版	中央経済社	開架・中央	336.91/W45
渡部 裕巨 (名誉教授) 北村 敬子 (商学部) 石川 鉄郎 (商学部) 木下 徳明 (商学部) ほか 編著 執筆	テキスト初級簿記	中央経済社	開架・中央	336.91/W45

## ②中央大学関係資料目録 2008.2 - 2008.8 (貴重書・準貴重書指定)

著者	書名	請求記号
高橋 健二 (訳)	凍えた天使 (ドイツ民族作家全集)	943/Sc5
横山 源之助	内地雑居後の日本	366.021/Y79
横山 源之助	怪物傳	914.6/Y79



## 貴重書・準貴重書の利用について

貴重書、準貴重書の閲覧は館長の許可を要するため事前の  
手続きが必要です。  
詳しくは中央図書館2階カウンターに、お問い合わせ下さい。  
なお、大学院生は指導教員の推薦状が、学部学生は指導教  
員の同伴が必要となります。

## 編集後記

本号では、特集コレクション紹介として、「19世紀イギリスの挿絵付き雑誌」を青山学院大学教授の富山 太佳夫先生にご担当頂きました。当館を良くお使い頂いているのが何われ、興味深い内容に感謝申し上げます。また、「図書館さんぽ」では、お近くの国文学研究資料館様にご協力を得ました。深く御礼を申し上げます。近年変貌が激しい立川に、また別の一面を見た思いでした。次号13号は4月に発行を予定しております。読者の方からのご意見等歓迎致しますので、お寄せ願います。